

水野氏陣屋跡（大里郡寄居町）

築城年代：天正10年（1582年）、築城者：水野長勝

前方は昌国寺本堂/水野氏陣屋であったとされるエリアは、昌国寺境内となっている/昌国寺の開基である水野長勝は織田信長に仕えていたが、本能寺の変の後は北条氏邦の家臣となり、鉢形城内に屋敷を与えられ、ここ赤浜にも居館を構えたとされる/境内の周囲には、今なお土塁や空堀が良好な状態で遺っている/陣屋跡は方形で、ここは入口部分であったと思われるが、右手の土塁・空堀のラインと、左手の土塁・空堀のラインは前後にズレていて、いわゆる「食い違い虎口」となっていたように見える/南側から見たところ



水野家一族の墓所もあるようだ/水野十郎左衛門とは水野長勝のこと

[video](#)



本堂は方形の陣屋跡の、中心より左手前（南西側）に建っている

[video](#)



そこで左手を見ると、南辺の土塁と空堀（土塁の外側）が見える

 [video](#)



その土塁・空堀は前方（陣屋跡の南西隅）で右手（北方向）に折れて続いている

[video](#)



こんな塩梅



正面が南西隅



南西隅から陣屋跡のエリアを見たところ



これは土塁の角の上から、右手の東方向に続く土塁を見たところ



同じく、左手の北方向に続く土塁を見たところ



同じく、外側の空堀の角（直角の曲がり角）を見たところ

[video](#)



これは西辺の土塁を陣屋跡から見たところ



そこで、右手（北方向）に続く土塁を見たところ



同じく、左手（南方向）に続く土塁を見たところ

[video](#)



これは西側の虎口と思われる土塁の切れ目の辺りを見たところ

[video](#)



そこで、左手（南方向）に続く土塁を見たところ



その土塁上に乗って、南方向を見たところ/土塁が前方で左手（東方向）に折れているのが見て取れる



振り返って、西側の虎口を見たところ/左手（陣屋外）は墓地のエリアになっている



これは虎口の向こうの土塁の上って、北方向を見たところ/土塁が前方で右手（東方向）に折れているのが見て取れる



土塁の左手から北方向を見たところ



同じく、土塁の右手から北方向を見たところ/右前方は北辺の土塁



これはその前方の北西隅で、陣屋跡のエリアを見たところ



そこで、右手（南方向）を見たところ



同じく、左手（東方向）を見たところ



これは北西角の土塁上から、外側の空堀の角（直角の曲がり角）を見たところ



そこへ下りて、振り返って土塁の角を見上げたところ



そこで、右手の空堀を見たところ/空堀は南方向へと延びている



同じく、左手の空堀を見たところ/空堀は東方向へと延びている



これは土塁の角の上から、陣屋跡のエリアを見たところ

 [video](#)



そこで、右手の南方向に続く土塁を見たところ



同じく、左手の東方向に続く土塁を見たところ



これはその土塁の左下の空堀に下りて、東方向を見たところ



そこで、土塁を見上げたところ



その右手を見たところ/空堀は左手（南方向）に折れているのが見て取れる

[video](#)



さて、堀底を東方向に進んで、その先を見たところ/右手が土塁



更にその先に進んだところ



左手を見ると、農地が広がっている

 video



そこで、右手の土塁上に上り、その先を見たところ/右手が陣屋跡

[video](#)



これは土塁上をその先（東方向）に進み、北東角の土塁上で陣屋跡のエリアを見たところ

 [video](#)



そこで、歩いて来た右手の土塁を見たところ/左手が陣屋跡、右手は空堀



これは更に右手（背後）の空堀を見たところ



その空堀を下りて、北東角の土塁を見たところ/右手が西方向、左手は南方向に延びる空堀

[video](#)



右手の西方向に延びる空堀を見たところ



こちらは左手の南方向に延びる空堀を見たところ



その南方向に延びる空堀の先の状況/右手が陣屋跡

 [video](#)



その先で、右手の空堀と土塁を見たところ

 [video](#)



振り返って、北方向を見たところ/現在は道となってしまうが、当時の空堀はもっと深く、幅も広がったことと思われる

[video](#)



さて、ここは南東角の空堀で、右手は北方向、左手は西方向に延びる空堀

[video](#)



右手の北方向に延びる空堀を見たところ



左手の西方向に延びる空堀を見たところ



そこで、右手の土塁の上を見ると鳥居が立っている/稲荷社ようだ

[video](#)



これはその堀底を西方向に進んだところ/右手が陣屋跡



そこで、振り返って東方向を見たところ



少し退いて見たところ/左手が土塁

 [video](#)



さて、これは陣屋跡の中心部辺りに建っている鐘楼を北側から見たところ/右前方が本堂

 [video](#)



そこで、振り返って北方向を見たところ/正面は北辺の土塁



これはその左手（西側）から東方向を見たところ/左手が北辺の土塁



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



これは反対に、東側から西方向を見たところ/右手が北辺の土塁



そこで、右手を見たところ



同じく、左手を見たところ



これはその左手で、東辺の土塁を北側から南方向に見たところ



その土塁上に乗って、南方向を見たところ



そこで左手に、空堀を見たところ/正面は東側にあった道路



これはその先に進んで、東辺の土塁を北側から南方向に見たところ

[video](#)



右手から見ると、東辺の土塁の右手に稲荷社が見える



その稲荷社へ上ってみよう



左手に土塁を見たところ



これは稲荷社越しに土塁を見たところ



その先で土塁を見たところ



そこから左手に陣屋跡を見たところ



更に左手を見ると、南辺の土塁が西方向に続いている

 [video](#)



その先に進んで、振り返って南辺の土塁を見たところ

 [video](#)



さて、陣屋跡の西側の虎口から前方の墓地へと進んでみよう



これは反対側（西側）から、その虎口を見たところ



そこで、左手に土塁を見たところ



同じく、右手に土塁を見たところ



土塁の右手には空堀が並行している



振り返って、左手の土塁と空堀を見たところ



ここが陣屋跡の西側にある墓地/説明板が立っている



昌国寺は、水野氏（水野家一族）の菩提寺として現在も存続しているようだ

町指定史跡

水野家一族の墓所

指定 昭和三十三年四月一日
所在 寄居町大字赤浜九一五

昌国寺の開基は水野新右衛門長勝である。長勝は北条氏邦に仕えていたが、徳川家康と従兄弟という関係から、鉢形城落城後の翌年、天正一九年（一五九一）七月、旗一本に取り立てられ、男衾郡赤浜・能増（現小川町）ニヶ村の合計八〇〇石の地をあてがわれた。

墓石は、この看板の右側、池の東側に家形形式の長勝の墓石、その母は宝篋印塔、長勝の夫人と嫡男は五輪塔が立っています。

また、この看板の正面には累代（二代忠貞、三代忠顕、四代忠富、五代忠英、六代政勝、七代貞利）の墓石として宝篋印塔が、そして、その夫人達の箱型墓石が並んでいます。

平成十年三月

寄居町教育委員会



前方の一段高いマウンドの上に標柱が立ち並んでいるのが見える

[video](#)



このマウンドは土塁のようなが・・・



マウンドの上には、水野氏二代から七代の墓石が宝篋印塔として、そしてその夫人達の箱型墓石が並んでいる

[video](#)



これは二代、忠貞の宝篋印塔



延長院殿英岳玄仙大居士

そこから振り返って見ると、前方にも標柱が立ち並んでいる



アップで見たところ



左から水野長勝（家形形式）、長勝夫人（五輪塔）、長勝母（宝篋印塔）、嫡男（五輪塔）の墓

[video](#)



これは墓地の近くの南西側から、陣屋跡のある昌国寺のエリアを見たところ/前方の木々の部分がそれ/背後には東武東上線が走る

[video](#)



これは陣屋跡の南西の角で、土塁と空堀が右手は東方向に、左手は北方向に続いている

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



さて、これが本堂/僧侶は常時は不在のようだ



一寸した彫刻があった



こんなものも



これが南側から見た鐘楼



これは「高野槇」の説明板と標柱

[video](#)



町指定天然記念物

高野槇

指定 昭和三十三年四月一日
所在 寄居町大字赤浜(昌国寺)

昌国寺の高野槇は、近隣では見ることができない大木であり、指定当時、幹の目通り四メートル余、高さ二十五メートル余で推定樹齢六百余年の古木であると伝えられている。

この高野槇は、現在、江戸初期の水野石見守長勝の陣屋跡と言われている場所を巡る土塁の上に自生しており、このことから推定すると、この樹齢は四百年前後であるとも考えられる。

残念なことに、台風の影響を受け、幹の先が折れてしまっているが、それでも推定の高さは二十メートル以上の古木である。

平成十一年三月

寄居町教育委員会

こんな石造物もあった



参考ホームページ

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/ba5b30e3de93d134b491ee8873164ae2>

<http://kogasira-kazuhei.sakura.ne.jp/joukan-saitama/mizunosi-jinya-yorii/mizuonosi-iinya-yorii.html>

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/06_ohsato/004_yorii/yorii.html#mizuno

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/yoriimati02.htm>

<https://atenzasports23z.blog.ss-blog.jp/2012-08-24>

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/178mizuno/mizuno.html>

